

認知症初期集中支援チーム活動について

1. 対象者の状況（令和 2 年度）

（単位:人）

対象者	23 人（新規対象者+前年度からの継続支援者）									
性別	男性	11	女性	12						
年齢階級	74 以下	5	75~79	6	80~84	9	85 以上	3		
世帯状況	独居	4	夫婦のみ	7	その他	12				
把握ルート	本人	1	家族	12	民生委員	4	近隣	1	ケアマネ等	5
認知症自立度	I	1	II a	3	II b	13	III	3	不明	3
介入時認知症診断	診断あり	8	診断なし	9	不明	6				
介入時要介護認定	申請なし	11	申請中	8	認定あり	4				
介入時介護サービス	利用なし	23	利用あり	0						

2. 初期集中支援の状況（令和 2 年度）

（単位:人）

対象者	16 人（令和 2 年度中に支援終了者）					
認知症の診断	認知症の診断に至った	8	介入時に診断あり	4	診断に至っていない	4
終了時介護認定	要介護	14	要支援	1	申請中	1
終了時サービス利用	介護保険サービス利用に至った	6	介護保険サービス利用に至っていない	9	申請中	1

3. チーム員について

(1) 佐倉市のチーム員編成…地域包括支援センター職員と認知症サポート医

①地域包括支援センター（専門職）	②認知症サポート医
保健師（看護師）、社会福祉士、主任介護支援専門員 ※上記 3 職種のうち、認知症ケアや在宅ケアの実務・相談業務等に 3 年以上携わった経験者に限る ※介護福祉士、精神保健福祉士等の資格を所持する者あり	認知症サポート医等の要件を満たす医師のうち、チーム員となることに同意のあった医師
2 名以上	1 名

志津北部	志津南部	臼井・千代田	佐倉	南部
サポート医 （在宅医）	サポート医 （大学病院）	サポート医 （在宅医）	サポート医 （在宅医）	サポート医 （在宅医）
地域包括 （看護・福祉）	地域包括 （看護・福祉）	地域包括 （看護・福祉）	地域包括 （看護・福祉）	地域包括 （看護・福祉）

チーム員は概ね月 1 回、チーム員会議をサポート医がいる医療機関に出向き、対象者の支援方針を話し合う。

医学的な見地を要する対象者には、サポート医が包括のチーム員と同行訪問している。

【現状と課題】

- 対象者は 80 代以上の同居家族がいる者が多い。認知症の初期の段階というよりは家族が介護で疲弊してから相談につながっている状況がみられる。
- 初期集中支援チームを地域包括支援センターに配置していることで、介護サービスによる生活支援のニーズが高い対象者には、早期に効果的に介入ができています。
- 一方で、認知症の行動・心理症状（BPSD）の幻覚・妄想が顕著となっており、精神科受診につなげたいが、本人・家族の強い拒否があるなど、医療受診につながらないケースなどへは対応に行き詰まる場合がある。

4. 基幹型認知症初期集中支援チーム員訪問活動のモデル事業

【目的】

市内の日常生活圏域単位で配置する認知症初期集中支援チーム（以下「支援チーム」という）に対し、認知症専門医、医療専門職（公認心理師、認知症看護認定看護師、精神保健福祉士等）により構成される基幹型認知症初期集中支援チーム（以下「基幹型支援チーム」という。）を配置し、支援チームへの助言や対象者への入院、受診等へのフォローアップを行うことで認知症の人と家族支援の充実を図ることを目的とする。

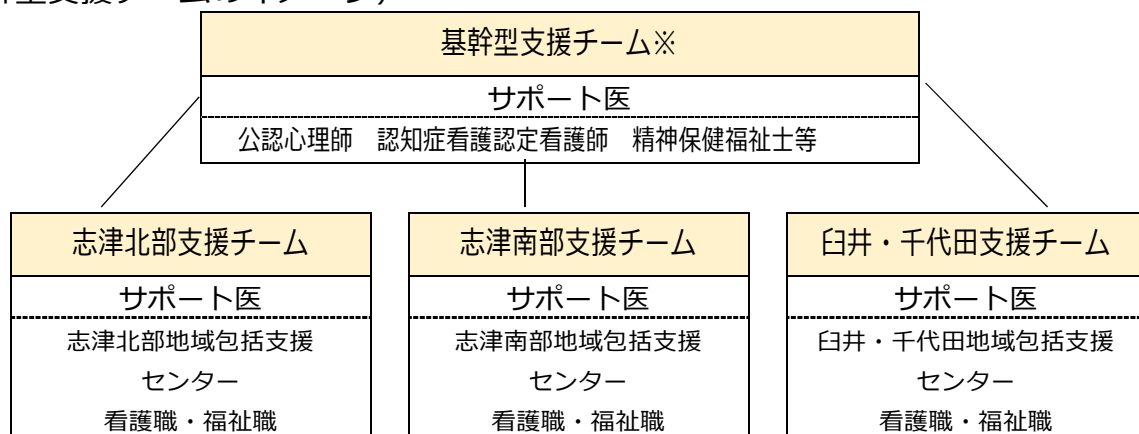
【役割】

基幹型支援チーム員医師・基幹型支援チーム員医療専門職として、支援チームからの要請に基づき、必要に応じて支援チーム員とともに訪問を行い、相談に応じる。

（活動例）

- ・BPSD(認知症の行動心理症状)が顕著に現れており、受診が困難な対象者について、支援チームからの訪問の依頼を受け、訪問に同行する。
- ・必要な医療・介護サービスの支援方針を支援チームとともに決定する。
- ・対象者への対応方法について支援チームへの助言を行う。

（基幹型支援チームのイメージ）



※ 令和 3 年度は東邦大学医療センター佐倉病院に事業を委託。

訪問対象地域を志津北部圏域、志津南部圏域、白井・千代田圏域としモデル事業として実施予定。